

第40回

クラシック・ギターを弾こう ～楽しく演奏（4）～

学習のねらい

「楽しく演奏」シリーズ、今回はポップス、クラシックから民族音楽まで幅広く使用されているギターについて学びます。ギターは美しいメロディー、多彩なハーモニー、鮮やかなリズムを表現できる楽器で、ぜひ挑戦してほしい楽器の1つです。今回はギターの中でも「クラシック・ギター」を取り上げていきます。ゲストとしてクラシック・ギタリストの鈴木大介さんにお越しいただきました。



講師
末石 忠史

基礎的な奏法を身に付ける

クラシック・ギターには6本の弦が張ってありますが、3本のナイロン弦が張ってあるほうを下となるように、楽器のくびれを太ももに当てて構えます。そのようにすると弦が張ってあるネック（棹）の部分が左手側にきます。これが基本的なギターの構え方になります。

ネック（棹）の部分にはフレットと呼ばれる金属の細い棒が埋め込まれていて、このフレットの区切りを左指で押さえることで音の高さを変えることができます。正確な音を出すためには、はじめに各弦の音の高さ整えるチューニングという作業が必要になります。

チューニングには、「チューニング・メーター」や「音叉」などを使用しますが、今回はクラシック・ギター奏者の鈴木大介さんが演奏する音を聴いて、ギターを持っている方は、一緒にチューニングをしてみてください。また、クラシック・ギターは、右手で弦を弾いて音を出しますが、この右手にもいろいろな奏法があります。

代表的な奏法が「アル・アイレ奏法」と「アポヤンド奏法」で、「アル・アイレ奏法」では弦を弾いた指が隣の弦に触れないのに対し、「アポヤンド奏法」では、弾いた直後の指が隣の弦に触れます。

タブ譜の読み方を身に付け、演奏する

ここではモーツァルト作曲、水谷桃香編曲の「ピアノソナタ K.331 によるギター二重奏」の楽譜を使って学んでいきます。

今回準備した楽譜では、上の段に一般的な五線譜が書かれ、下の段に「T・A・B」と書かれた楽譜があります。この楽譜のことをタブラチュア譜と言います。一般的にはタブ譜と呼ば

れ、左手の弦の押さえ方を示しています。タブ譜には6本の線が書かれていて、それぞれの線がクラシック・ギターの各弦に対応しています。タブ譜の6本線のうち一番上の線が第1弦(一番細いナイロン弦)に対応しており以下、第2弦、第3弦……と対応していきます。そのタブ譜の線の上に書かれた数字は、左手で押さえるフレットの番号(糸巻きに近いほうから1、2、3……)を示しています。リズムは五線譜の楽譜と同じ形の表記がされています。

ここでは、鈴木大介さんからクラシック・ギターを練習する際に注意することを教えていただきます。

クラシック・ギターの音色や



表現の豊かさを味わうゲストの鈴木大介さんが演奏されるタレガ作曲の「ラグリマ(涙)」を聴いて、クラシック・ギターの音色や表現の豊かさを味わってみましょう。

ゲスト：鈴木大介さん(クラシック・ギタリスト)

ワードファイル

● フランシスコ・タレガ (1852 ~ 1909)

スペインの作曲家・ギター奏者。「近代ギター音楽の父」と呼ばれている。代表作は『アルハンブラの思い出』ほか。

♪ 今回取り上げる曲 ♪♪

- 『ピアノソナタ K.331 によるギター二重奏』 作曲：モーツァルト 編曲：水谷桃香
- 『ラグリマ(涙)』 作曲：タレガ